

ほげんだより

いのちのおはなし～保健師 片本さんによる出前授業～

千早赤阪村保健センターの保健師 片本まなみさんを講師としてお招きし「いのちのおはなし」をしていただきました。片本さんは助産師のご経験もある方です。命の始まりからお腹の中の赤ちゃんが成長する様子、妊娠中のお母さんの体の変化、出産（経膣分娩と帝王切開）などについてお話をしていただきました。

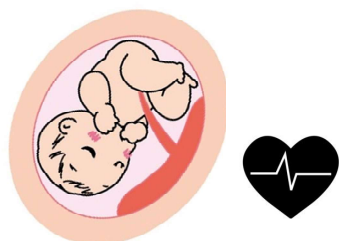
命の始まりは約1mmの受精卵から

最初に針の先くらいの穴があいた黒い紙が配られました。「これは何の穴でしょうか？」と片本さんが尋ねると、子供たちは不思議そうに紙の穴をのぞきこんでいていました。人間の命の始まりがこの小さな穴くらいの受精卵だったことを知らせると驚きの声が上がっていました。



赤ちゃんの心臓の音を聴いてみたよ

大人と赤ちゃんの心臓の音を比べながら聴いてみました。赤ちゃんは子宮の中で280日間、成長のために一生懸命に血液を循環させます。そのため大人より速く心臓が動いています。子供たちは赤ちゃんの力強い鼓動を感じることができたようです。



お腹の中の赤ちゃんの成長の様子

お腹の中の赤ちゃんの10カ月間の成長や様子についてスライドや写真を用いて説明していただきました。赤ちゃんはお母さんの胎盤からへその緒を通して栄養と酸素をもらっていることや、妊娠5ヶ月くらいになると、赤ちゃんは指しゃぶりをしたり外の音が聞こえたりするなど成長とともに変化していく赤ちゃんの様子を教えてくださいました。



赤阪小学校 保健室
5年生特別号
R5(2023).3.7

命がけの出産

お母さんと赤ちゃんが出産のラストスパートに向けて二人三脚で頑張る様子を片本さんの実体験を交えながらお話していただきました。また、経膣分娩だけではなく、帝王切開で産まれてくる赤ちゃんのお話もしていただきました。帝王切開は、唯一自分のためではなく赤ちゃんのためにする手術。立派なお産であることを学びました。

赤ちゃんは何度か向きを変え、回転しながら出てくるよ。



赤ちゃん抱っこ体験 首をしっかり支えて上手に抱っこできていました♡



児童の感想

- 最初は見えにくいくらい小さかったのに、出てくるころにはあんなに大きくなっていて命はすごいなと思った。
- 赤ちゃんが産まれるまでの事を教えてもらって、自分の妹のことを3000gの赤ちゃんを抱っこしていて思い出した。自分もその痛みを感じたい。
- 私は帝王切開で産まれたから母の偉大さがわかった。
- 命をかけて産んでくれたので、自分の命を今よりもっと大切にしようと思った。
- 命がけで産んでいると聞いて、お母さんに感謝しかないと思った。
- 私たちはこんな風に産まれてきたんだとわかって、改めて人間はすごいなと思った。赤ちゃんを抱っこした時、頭が一番重かった。
- お腹の中では最初は1mm程の大きさだったのに、今では1500倍以上の大きさになってすごいと思った。人間の成長はすごい。